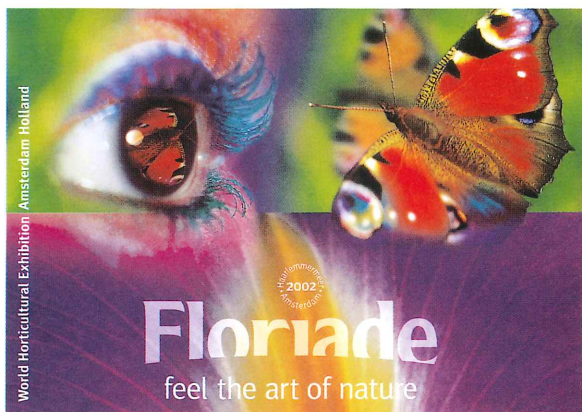
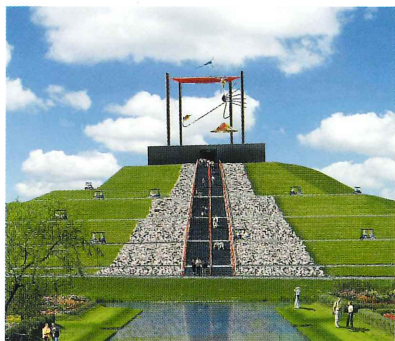




オランダ・フロリアード(関連記事本誌掲載)

チエーリップ 四季だより

『植物館が物語る私と植物の関係』

環境プランナー&デザイナー

辻本 智子

1) 植物は地球の偉大なメッセンジャー
先日、発光ダイオードの研究をされているO教授にお会いする機会があり、「私は以前、植物を研究材料にしていなかったが、植物を研究材料にすることにより植物からいろいろなことを気づかされた。人間もガンもあらゆる地球上のものは宇宙の塵と太陽の光と水から形成された仲間であること。今私たちが害だとも思うものでも、それは遺伝子が形成される時になんらかの異常(?)が起こっただけで、それを絶滅させるのではなく、何がそれを生

んだかその状況や環境を理解し、いかに共生できる形にもっていくかを考えることが重要であり、発見、発明もそこから生み出される。自分たちとは違う、間違っているといつて絶滅させることは正しくない。世界平和もしかり……。」といったようなお話を聞いて、私も大感激、大賛成でした。
植物は本質を気づかせてくれる、本当に偉大な地球のメッセンジャーなのです。

私が設計、プロデュースし、淡路花博でオープンさせた『奇跡の星の植物館



▲奇跡の星の植物館

館(兵庫県淡路島)のサブテーマは「地球の奇跡を見つけたいで!」です。植物の形、色、香りから自然の美しさ、科学性を読み取るとともに、それを理解し様々な発見や発見、文明、文化を築いてきた先人のすばら

しさを植物館の展示やイベントから読みとってもらい、これからの私たちの生き方を考えようという思いで創ったものです。

私は植物館を設計し、運営・プロデュースまでお仕事にしています。デザイナーは設計するだけがお仕事と考える人もいますが、植物を相手にそれは通じません。また、珍しい植物を展示しているだけなら現地へ見に行った方がましではないでしょうか。

「植物は地球史を語り、民俗史を伝える。」と私は信じます。植物館の役割は植物が発している地球のメッセージや先人が自然との共生で築き上げた文明や文化、暮らし方を読み取り、お客様が感じ取れるメッセージとして展示することではないでしょうか。そのためには美しく、感動的で興味深いものでなければなりません。

植物は知れば知るほどそのすばらしさに対する感動や発見が増えるものなのです。だから次から次に新しい興味が湧いてきて、もしかすると植物館企画を一番楽しんでいるのは私自身かもしれません。

2) 植物と付き合うたびに生まれる新しい植物館

植物と私の関係はまさしく私の創る植物館に表現されていると思います。

私が一番最初に創った『花の植物館』は「花と緑のある暮らし」がテーマで、年に十回植物館全体が様変わりし、様々



▲花の植物館

なガーデン提案や海外の植物をその暮らしと共に伝えていました。国立民俗学博物館から楽器や農具、工芸品等展示品を借り植物民俗学的展示を行いました。民俗音楽等数々のイベントを行いました。アフリカはウリ文化なので楽器もウリ科の植物からできています。アジアではタケ等結構いろいろなことが学べました。また、松下電器産業労働組合の施設だったので、大阪府立大学と照明研究所が人工照明による野菜生産―大阪花博の「逆さレタス」の研究を行っていたので、その研究内容を展示したり、冬に人工光下で蝶を飛ばしたり結構楽しい展示を行っていました。二つ目の『花の地球館』は岐阜県の花井振興を目的に計画されました。地

球史から花を位置づけ、環境に適応し、わが身を変化させながら進化してきた花の姿に学ぶとともに、地球史の中の植物の役割を把握しその視点に立った園芸の今後の方向を考えようというコンセプトで企画しました。一九九五年、まだ、イングリッシュガーデンが一般化していない時期でしたが五感に訴える植物やデザインの提案を行いました。また、岐阜県ということでアースギャラリーという地球史を鉱物や化石等で美しく伝えるギャ



▲花の地球館

ラリーも創り、男の子が興味を持つ植物館づくりを行いました。

同時期、最初は植栽デザインだけ関わった『春日井市都市緑化植物園』の花の休憩所でボランティアが運営する植物館を創りたいという願いを受け入れていただき、最初はニュータウンのガーデン提案を行い、花のまちづくりの情報発信を行っていました。今は地

域性と伝統性をいかにガーデニングで守っていくか、景観づくりの提案を植物館から行っています。植物館がまちづくりの拠点となること、住民がまち



▲春日井市都市緑化植物園

づくりの主体であることが実感できてきました。

植物との付き合い方が増える毎に植物の偉大さ、地球が奇跡の星であること、人間は花に癒されていることを実感し、また、新たな挑戦を試みました。

3) 四季彩館への期待

植物館は植物園のように植物だけをみせるのではなく博物館的要素を持ち、いろいろな視点から植物を捉えようとする施設です。理科が選択科目になり、総合的に地球を学ぶ機会がなくなってきた現在の教育環境において異分野交流拠点となりえる植物館の役割は重要です。何か確実な結果を出さないといけない研究機関ではなく、興味深いことや楽しい

ことを伝える施設であれば良いので、いろいろな発想でいろいろなことを試みるのが可能なのです。

四季彩館はチューリップをテーマに創られた植物館です。チューリップの歴史や品種の紹介などが行われ、チューリップからヨーロッパの文化も学べます。どの子供も大好きなチューリップ。園芸産業の新しい技術開発の試みを子供が楽しめる発想で展示したり、異分野交流を生み出し新たな産業展開を四季彩館から試みたり、チューリップを用いながらも伝統的散居村の景観を継承する花のまちづくりを行うなど施設内だけの活動から砺波市全体に広がる活動を今以上にすすめられると、きっと、美しく元気なまちが、また、さらに蘇るのではないのでしょうか。

略歴

つじもとともこ



一九七六年 大阪府立大学農学部園芸農学

科花卉学研究室卒業

一九七六年四月〜十二月

カナダナイアガラ公園協会へ

国際交流研修学生として留学

一九八一年 大阪府立大学大学院農学研究

科緑地計画学教室修士課程修了

一九八一年 大阪府立大学大学院農学研究
博士課程入学

一九八一年九月〜一九八四年一月

カリフォルニア大学バークレー

校環境デザイン学部ランドス

ケープ学科大学院留学

一九八五年

大阪府立大学大学院農学研究

博士課程中退後、株式会社A

AP入社、都市環境プランニ

ングを中心としたプロジェクトを手がける。

一九八八年〜一九九五年三月

展示企画、植物デザインを手

がけた松下電器産業労働組合

ユニティピアさやま「花の植

物館」館長就任。"自然と人間

の共生をテーマに、プランニ

ングからプロデューサーま

で行つた。

一九九五年四月

有限会社辻本智子環境デザイ

ン研究所設立

一九九五年八月

株式会社辻本智子環境デザイ

ン研究所設立

【現在】

株式会社辻本智子環境デザイン研究所

代表取締役所長

財団法人兵庫県園芸・公園協会理事

京都教育大学非常勤講師

武庫川女子大学非常勤講師

淡路夢舞台温室「奇跡の星の植物館」

プロデューサー

2002
Hague Member
Amsterdam

Floriade

feel the art of nature

● フロリアード2002 ●

オランダが誇る十年に一度の国際園芸博覧会、『フロリアード2002』が、今年の四月六日から十月二十日まで開催されます。第五回目となる今年はハーレマーメアが会場となり、六十五ヘクタールの敷地内には国内外の三百以上の業者が出展し、合計百万株以上の美しい花々が展示されます。スキポール空港やアムステルダム、ハーレムといった観光地からも近いことから、期間中、世界各国から約三百万人の訪問者を見込んでいます。

『Feel the art of nature』

二〇〇二年の『フロリアード』のテーマは、'Feel the art of nature (自然が織りなす芸術を感じよう)'です。このテーマは、人が自然を楽しむと同時に、自然環境を保持しようという、人間の生活と自然との共存を図ることを意図したものです。

会場は、自然の地形を生かしたものとなっており、『ガラス屋根エリア』、『丘エリア』、『湖エリア』の大きく三つのエリアに分けられます。

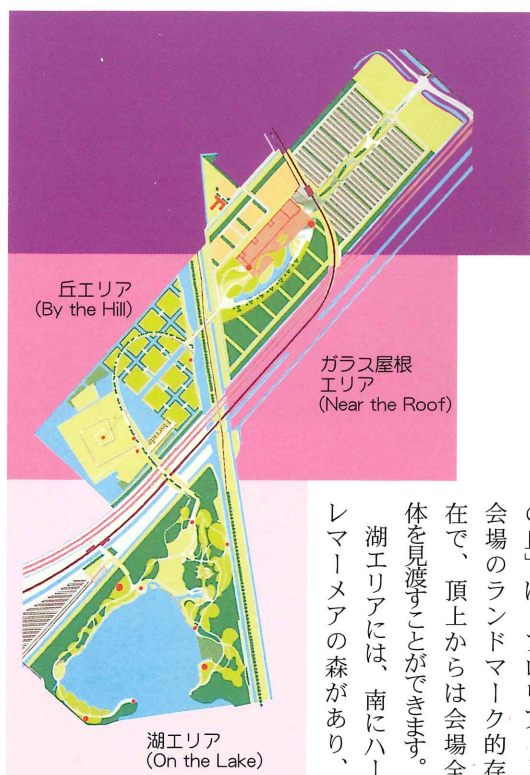
『ガラス屋根エリア』は、細長い谷と中央に配された池が中心となったエリアで、谷の部分の二万七千八百平方メートル(サッカー場約四個分の広さ)が、ガラス屋根で覆われています。このエリアでは、主に、北米・南米・アフリ

カ・オーストラリアなどの国々による、季節に沿った花の展示が行われる他、最先端の技術を用い、環境に配慮した近未来的な温室、「未来の温室」の展示もあります。

丘エリアは、オランダのポルダー(干拓地)のイメージで、広さ三百六十平方メートルの島が十個あり、対称に配置されています。『グリーンシティ』と呼ばれるエリアでは、二〇一〇年の人々の暮らし・仕事・レジャーをイメージさせる展示が行われる予定です。その他、芝生で覆われたピラミッド形の丘『ビッグ・スポッター

の丘』は、フロリアード会場のランドマーク的存在で、頂上からは会場全体を見渡すことができます。

湖エリアには、南にハーレマーメアの森があり、



▼湖のエリア (2001年撮影)



▼蓮池 (イメージ)

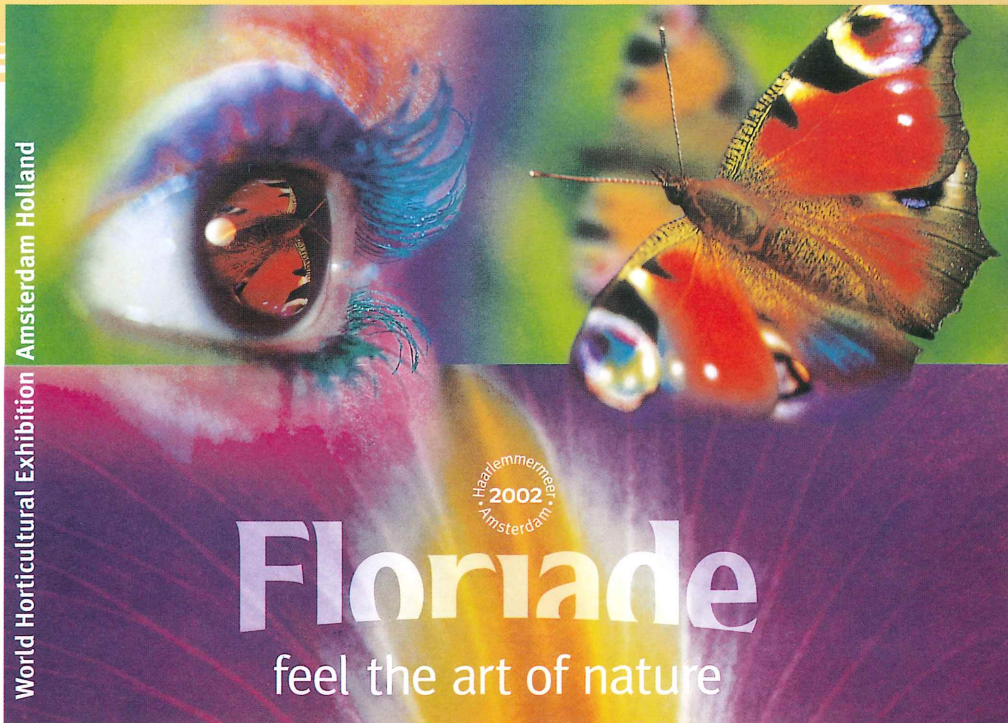


中心に大きな湖があります。このエリアの見所は、百万本の花々で埋め尽くされた「花の谷」です。この花の谷では、球根花や一年草、多年草など季節に応じた花々が色鮮やかに咲き誇ります。また、中国やフィリピン、日本といったアジアの国々をはじめ、ヨーロッパ諸国によるバラエティ豊かなテーマガーデンも見ることができます。その他、約二百種類の睡蓮のコレクションの公開も見所の一つです。

『日本からの出展』

日本政府からの出展展示では、*feel the art of nature* のテーマに基づき、日本人が自然とどのように共生しているか、また、園芸を通してどのように自然を感じ、表現しているかといった、

日本人の感性と自然との係わりを解りやすく紹介することを目的としています。そして、わが国の園芸技術、文化の伝統的なものが現代にどのように生かされ、二十一世紀にどのように継承・発展させていくかについても紹介する予定です。



▲フロリアード2002パンフレット

『富山育成チューリップの紹介』

今回のフロリアードには、オープニングの四月六日から十六日までの期間、富山で育成されたチューリップが富山県花弁球根農業協同組合の協力により日本政府の展示館に展示されます。出展品種は県の野菜花き試験場で育成された、「白雪姫」、「紅輝」、「恋茜」をはじめ、県内の生産者によって育成された、「茜」、「楊貴妃」等の品種



を含む十七品種を予定しています。これを契機に、富山県出身の衆議院議長公邸にも、これらの県内育成品種を含む、三十品種四千球のチューリップ球根が砺波市により植栽されました。今春には、オランダで、東京で、そして砺波で、同じ富山生まれのチューリップが人々の目を楽しませることでしょう。

▼フロリアード春



<写真提供：オランダ政府観光局>



▲フロリアード夏



チューリップの歴史

「日蘭花卉球根と
球根植物の400年」より

一昨年の二〇〇〇年は、日本とオランダが交流を始めて四百年を記念する年でした。その年の末にオランダ・リッセル市にある「de Zwaarte Tulp 壺蔞器」から日蘭の友好交流四百年を記念して出版された本、「日蘭 花卉球根と球根植物の400年」が、砺波市に寄贈されました。この本には、日本とオランダの交流の歴史に加え、オランダと日本におけるチューリップ等花卉球根の歴史についても詳しく記載されています。

その中から、これまで四季だよりでは紹介していないチューリップに関する興味深い歴史、及び学説等についていくつかご紹介します。



『チューリップ —愛と情熱の象徴—』

チューリップは、既に、十二世紀から十三世紀頃のベルシャ詩人や画家たちから多大な賞賛を受けていました。例えば、ベルシャにおいて赤いチューリップは、長い間、情熱的な愛の象徴とされてきました。当時の伝説の一つに、次のようなものがあります。

—ベルシャの王子が、ある、とても美しい王女にたいそう恋焦がれていました。

ある日、王子は愛する王女が死んだという知らせを受け取りました。ひどく気が動転した王子は、馬にまたがり、高い絶壁に沿って疾走するうちに、馬がつかずき、王子は峡谷に転落してしまいました。王子の傷ついた身体からたくさんの血がしたり落ち、その血の一滴一滴から、彼の献身的な愛の象徴である真紅のチューリップが生えたのです。



『日本への伝来』

最初のチューリップが日本へいつ到着したかということには諸説があります。
①フォン・シーボルトが一八五九年に將軍にいくつかの球根あるいは種を贈った。
②最初のチューリップ及びヒアシンスはフランスから個人輸出業者たちによって持ち込まれた。

両説ともどちらが正しい説であるのか証明は困難とのこと。



『最初の公式記録』

特に庭師の中で人気のあった雑誌「日本園芸会雑誌」（第十号、一八九〇年一月発行）の中には「チューリップは一月に植えてもよい。」と記載されています。このことは、一八九〇年にチューリップが庭師に注目され始めたことを

意味しています。当時、この新聞に記述があるチューリップは「デューク・ヴァン トル」（様々な園芸品種の親と考えられているチューリップ）だけです。この頃にはすでに前述の品種が輸入されていたに違いありません。



▲デューク・ヴァン トル (Duc van Tol)



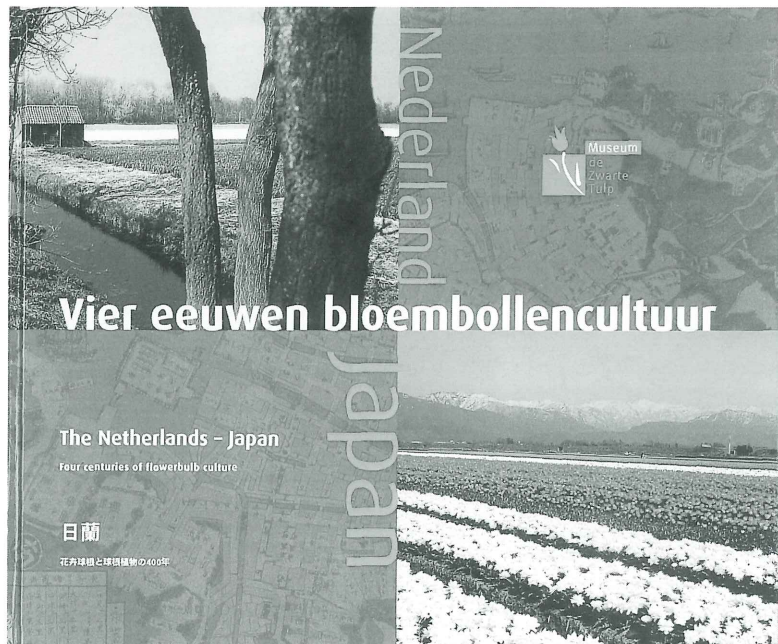
『営利目的のチューリップ栽培の始まり―新潟県』

オランダにチューリップが持ち込まれたばかりの頃と同様に、日本にチューリップが持ち込まれた当初は、植物学者や富裕な人々の家の庭に、ほんのわずかな量のチューリップ球根が栽培されていただけでした。

一九〇四年、水島義郎はオランダ人商人から百四十個のチューリップ球根を買いました。水島義郎の技術とチュー

リップにとって好適な環境―①冬期、雪のために地温と湿度が一定に保たれると同時に冬期の気温がオランダと同等であること、②三月から気温が急速に上昇し、夏期は暑く乾燥すること、③水はけの良い土壌であること、④球根が生長し始める時期である四、五月の日照時間が長くなること等―のおかげで、ほどなく良い栽培結果が得られました。

水島義郎の成功はすぐに認められました。一九〇九年、種苗会社の一つ、大日本農園が創立され、初代社長の鈴木政五郎はチューリップをオランダの



▲「日蘭 花卉球根と球根植物の400年」(de Zwarte Tulp 博物館発行)

ヒレゴムから輸入しました。鈴木政五郎は日本人栽培業者たちのために球根切り花の栽培技術に関する本を著しました。彼はすべての花卉球根について球根肥大の手段として適用されていた摘花について注目しました。当時の日本の栽培業者たちにとって、この摘花という手段はまったく未知の事でした。その後、チューリップ栽培に強い関心を寄せた人物とし

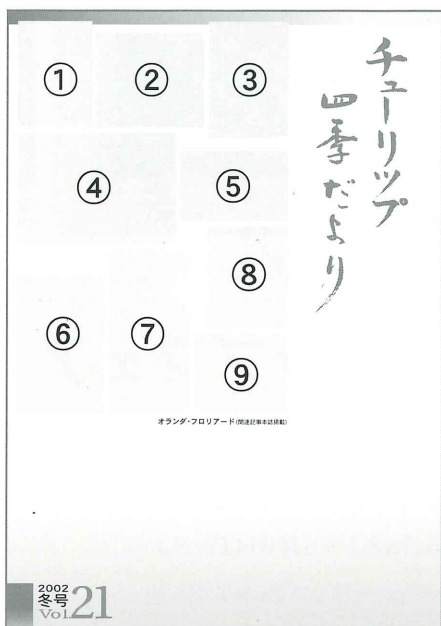
て知られている、新潟県の小田喜平太と小山重は、一九一九年には会社を設立しました。はじめは少量ではありましたが、一九二三年からは徐々に多くのチューリップ球根(どの品種であつたかは不明)がオランダから輸入されるようになってきました。

一九三〇年、新潟の栽培業者たちは組合を興すことを決心し、「新潟県花卉球根農業協同組合」が創立されました。この組合の設立が日本における営利目的のチューリップ栽培の開始とみなされています。

当時、ラ・レーヌ、ホワイト・ビューティ、カイザーズ・クラウ

ン、そして、イエロー・プリンス、などおよそ四十品種が栽培されていました。球根の価格に関しては、一九三〇年当時、百球当たりイエロープリンスが七円、同じく、カイザーズ・クラウンが八円でした。

〈表紙の写真〉



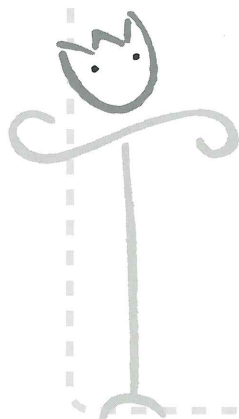
- ①チューリップ‘楊貴妃’(フロリアード2002出展予定)
- ②ビッグスポターの丘(フロリアード2002イメージ)
- ③チューリップ‘茜’(フロリアード2002出展予定)
- ④⑦フロリアード2002パンフレット
- ⑤⑥フロリアード1992より
- ⑧チューリップ‘恋茜’(フロリアード2002出展予定)
- ⑨蓮池(フロリアード2002イメージ)

〈写真及び資料提供〉

オランダ政府観光局

オランダ大使館

富山県花卉球根農業協同組合



チューリップ四季彩館
からのお知らせ

○第16回春を呼ぶチューリップ展

「車窓からのチューリップ in オーストラリア」

と き/ 3月1日(金)～10日(日)

ところ/チューリップ四季彩館ホール

◇期間中入場料(全館共通)◇

大人・高校生 500円 小・中学生 300円



第15回春を呼ぶチューリップ展より

2002 となみ チューリップフェア

～散居にひろがる 花のまち～

と き/ プレイベント 4月20日(土)～24日(水)

本イベント 4月25日(木)～5月6日(振休)

ところ/砺波チューリップ公園・チューリップ四季彩館 他



チューリップ四季彩館
TOMAMI TULIP GALLERY

2002年2月発行
(財)砺波市花と緑の財団 〒939-1381 富山県砺波市中村100番地の1
TEL 0763-33-7716・FAX 0763-33-0090
URL <http://www.city.tonami.toyama.jp/>
<http://www.tulipfair.or.jp/>